

令和4年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

- 1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
- 2 コミュニケーション能力の向上…地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
- 3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び部活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方針	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち半数達成 C=全て未達	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち半数達成 C=全て未達		評価の妥当性	改善方針の適切さ
1	教務課	授業環境の整備と授業規律の確立を目指す。	・授業「授業規律のスタンダード」(整理整頓・ベル着・先言後礼)の教室掲示による生徒の意識高揚をはかる。また年次と協力して、教員による教室美化、ベル着の呼びかけ、先言後礼を行う。	・教務課の生徒対象アンケートの「よくなった」回答の割合。 ①整理整頓70%(昨年度65.3%) ②ベル着60%(昨年度49.3%) ③先言後礼60%(昨年度43.3%)	生徒対象アンケート結果の「よくなった」回答の割合 ①整理整頓(62.9%) ②ベル着(51.3%) ③先言後礼(50.5%)	C	生徒対象アンケート結果の「よくなった」回答の割合 ①整理整頓(62.7%) ②ベル着(53.5%) ③先言後礼(44.6%)	C	中間評価より①整理整頓②ベル着は生徒自己評価は若干上がったが、③先言後礼は5.4ポイント下回った。昨年度と比較すると①整理整頓は数値を下げたが、②ベル着③先言後礼は昨年度を上回った。 今後は生徒会と連携するなど、生徒の方から盛り上げるような仕掛けを考えたい。	妥当	適切
	学力向上委員会	生徒の学習習慣の確立を目指し、授業や課題の工夫をする。新学習指導要領に対応した授業を研究し授業改善につなげる。	・年2回(5月、11月)の生徒授業アンケートを実施し、生徒の行動変容を調べる。 ・年2回(6月、11月)授業公開週間を実施し、互いに授業参観・意見交換を行い、職員会議で報告共有を図る。	①2回目の授業アンケートで生徒の学習について改善が見られた授業が80%以上。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫をしている。」の肯定的回答(全体)が85%以上。(昨年度85%)	①5月に生徒授業アンケートを実施した。教員1人につき1講座アンケートを実施し、11月までの目標を設定した。11月の結果からどのような変容があったかを確認する。 また、6月に授業公開週間を実施。おすすめ授業の一覧を作成した。授業見学の報告は16件であった。 ②学校自己評価アンケート(生徒)は11月実施予定である。	B	①5月と11月に生徒授業アンケートを実施した。教員に11月に授業が改善されたか自己評価してもらい「はい」と回答した先生は78%であった。 また、6月と11月に授業公開週間を実施。おすすめ授業の一覧を作成した。授業見学の報告は32件であった。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫をしている。」の肯定的回答(全体)が92%であった。	B	授業アンケートは初めての取り組みだったため、目標も自由に設定してもらった。自己評価が辛い教員も多く、もう少しテーマを絞った目標設定が必要かもしれない。 しかしながら、学校自己評価における生徒の評価は確実に良くなってきているため今後も授業公開なども含め授業改善に取り組みたらよいと考える。	妥当	適切
	1年次	進路実現に向けた学習習慣の確立と学力向上を目指す。	・1人1台端末を活用した授業改善を推進する。 ・生徒が主体的に取り組む授業を目指す。(生徒が「わかる」授業の実践) ・年間を通して課題提出を徹底する。 ・学習環境の整備と管理能力を育成する。	①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(1年次)が90%以上。(昨年度92.2%) ②道徳意識アンケートの「何事も自分でよく考えて判断し、自分の行動に責任を持っている。」の肯定的回答(1年次)が85%以上。	①学校自己評価アンケート(生徒)は11月に実施予定。 ②5月末に1年次生110名が回答。「何事も自分でよく考えて判断し、自分の行動に責任を持っている。」の肯定的回答が103名で93.6%であった。 また1年次独自に調査前に学習実態調査を実施しているが、その調査でも第1回調査前平日138分、休日174分、第2回調査前平日181分、休日193分であった。全体的には落ち着いた雰囲気の中で学習に臨んでいるが、一部の生徒に課題提出の遅れが見られたり、教材忘れなどが見られるため、1年間継続して取組と支援を行っていききたい。	B	①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、ICTを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(1年次)が約95%であった。 ②1月に1年次生96名が回答。「何事も自分でよく考えて判断し、自分の行動に責任を持っている。」の肯定的回答が91名で94.7%であった。 夏期課題同様に、冬期課題未提出者の居残り指導を実施。夏と比較しても提出状況の改善が見られ、居残り対象者も減った。	A	「1人1台端末を活用した授業改善を推進する。」「生徒が主体的に取り組む授業を目指す。(生徒が「わかる」授業の実践)」は次年度以降も推進していきたい。評価方法として今回と同様のアンケートを活用すべきかどうかは再検討したい。 「年間を通して課題提出を徹底する。」については生徒にも少ずつ浸透している。今後も取組の状況(解答を丸写ししていないか)なども継続して生徒に声掛けしていきたい。 「学習環境の整備と管理能力を育成する。」についてまだまだ改善の必要がある生徒がいる。クロームブックの有効な活用を模索しながら考えていきたい。	妥当	適切
	2年次	進路実現を具体化するために学力向上を目指す。	・手帳の定期的な活用をさせる。 ・調査前・調査後の継続的な提出物指導・学習指導(個別面談含む)を行う。 ・幅広い資格取得への支援をする。 ・『タブレット』の活用方法を共有化して「わかる授業」を実践する。	①生徒の年間平均評点65点以上 ②提出物提出率年次平均85%以上 ③学校自己評価アンケート(生徒)の「家庭での学習時間を十分確保している」の肯定的回答(2年次)が75%以上。(昨年度70%)	①1学期平均評点普通科68.1点、生ビ66.9点であった。 ②1学期提出率普通科第1回77%→第2回80% 生ビ科第1回80.6%→83.6% ③学校自己評価アンケート(生徒)は11月に実施予定。 一部の生徒に赤点が見られるため継続した支援で全体の底上げを行っていききたい。提出物については、普通科・生活ビジネス科共に上昇しているが、極端に出していない生徒もいるため1年間かけて継続的に支援と取組を行っていききたい。	B	①年間平均評点普通科66.4点、生ビ64.5点。年次平均は65.5点であった。 ②2学期末時点での提出率平均普通科77%、生活ビジネス科81%。年次平均79%であった。 ③学校自己評価アンケート(生徒)の「家庭での学習時間を十分確保している」の肯定的回答(2年次)54.3%であった。	B	今年度から教科別に調査前補習を実施して素点の底上げを図ることができた。全体的な提出物の提出率は79%であったが、不登校生徒を除くと82%程度となる。成績不振者、提出物不振者にはそれぞれ面談、指導を該当する全ての生徒に行うことができたため、今後も自発的改善を促せられるように指導を継続していきたい。来年度は進路意識の高揚をはかり家庭学習時間を確保させる取り組みも行っていきたい。	妥当	適切

令和4年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

- 1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
- 2 コミュニケーション能力の向上…地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
- 3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び部活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち半数達成 C=全て未達	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち半数達成 C=全て未達		評価の妥当性	改善方策の適切さ
2	進路指導課	地域と連携したキャリア教育を推進する。	・総合的な探究の時間「セトリー」で、地域に根ざした探究活動を実施する。 ・外部講師による授業や講演が年間計画の中で効果的に実施されている。 ・地域の各種団体と情報交換し、効果的・継続的な連携による学習活動を実施する。 ・地域の外部講師・協力者リスト「Setouchi Community Teachers (SCTs)」を作成する。	①セトリーアンケート(生徒)の「地域と連携した教育活動に関する項目」の肯定的回答(全体)が75%以上。 ②インターンシップについて、17か所以上の企業・市施設と連携して実施する。(昨年度15か所) ③地域協力者リスト(SCTs)への登録者が20名以上になる。	①4月実施のセトリーアンケート(2年次生徒)の「地域や社会を良くしたり、活性化に貢献したりしたい」への肯定的回答は81.0%(とても:21.0%、やや:60.0%)、 「地域学に取り組むことで、自分の興味ある分野への理解が深まる」への肯定的回答は64.8%(とても:16.2%、やや:48.6%)。 ②企業インターンシップは13事業所に2年次就職希望者18名が、瀬戸内市インターンシップは2施設に2年次希望者2名(保育園2名はコロナ感染拡大の影響で中止)が参加した。就職希望者数の減少やコロナの影響もあって、事業所数は増えなかったが、事業所への事後アンケートで「生徒の態度・意欲」への肯定的回答は83.3%と高評価であった。 ③「聞き書き」協力者を中心に、リストへの登録を進めていく予定。	B	①1月実施のセトリーアンケート(2年次生徒)の「地域や社会を良くしたり、活性化に貢献したりしたい」への肯定的回答は87.7%(前回81.0%、今回内訳、とても:32.9%、やや54.8%)、「地域学に取り組むことで、自分の興味ある分野への理解が深まる」への肯定的回答は72.6%(前回64.8%、今回内訳、とても:34.2%、やや:38.4%)。 1月19日に課題研究と合同で開催した実践報告会では、3年次生活ビジネス科と2年次普通科の生徒が分科会・全体会で発表し、全校生徒310名と、外部参観者38名、報道関係者3名が参加した。全校生徒にとって意義深い活動と報告会が実施でき、セトリー運営指導委員会で今年さらに充実していったの高い評価を頂いた。 ②は中間評価と同じ。 ③「聞き書き」協力者やコミュニティスクール委員・リージョナル・モデル(旧)委員・セトリー運営指導委員を中心に、24名の方に登録していただくことができた。今後の地域で活動する際に、活動内容に応じてご協力を依頼する。	B	①アンケートについては、生活ビジネス科も含めた活動の実際とそぐわない面もあるため、見直しが必要である。学校自己評価アンケートの関連項目の活用も含めて検討したい。1月の実践報告会では、課題研究も加わって規模を拡大した形で実施し、外部参観者や教員からも高く評価された。アンケート結果を踏まえてさらに改善を図る。 ②企業インターンシップは、2年次就職希望者の人数が想定よりは少なく、コロナの影響で受け入れの制限もあったため、企業数自体は多くなかったが、昨年度の実績からの改善も図れ、問題なく実施できた。 ③地域との連携は、課題研究・セトリーとともにさらに広がっており、活動に必要な連携を十分に行うことができた。今後も生徒の活動や学習に応じた、連携を図っていく。	妥当	適切
	広報室	本校志願者130人以上を達成する。(進学状況調査1次=110、2次=108、特別=11)	・ホームページのブログ、Facebook、邑久高通信などで、本校の教育活動や生徒の様子について情報発信し、Instagramなど複数媒体による効果的な発信の研究を行う。 ・学校説明会(オンライン説明会)やオープンスクールの申込方法の改善、内容の見直しなどを行う。	①邑久高通信を年間6回以上発行。(昨年度7回) ②ブログを年間250回以上更新。(昨年度246回、Facebook:88回、Instagram:30回) ③オープンスクール参加人数(中学3年生)が240名以上。(昨年度195名・2回) ④地区別学校説明会を年間3回以上開催。(昨年度4回) ⑤学校自己評価アンケート(保護者)の「邑久高校のホームページは充実している」の肯定的回答が90%。(昨年度87%)	①今年度、邑久高通信は発行できていない。学校説明会で配布できるように、夏以降の様子を発信したい。 ②ブログの更新9/22時点で、87回更新。目標達成に向けて、月に20回更新回っているの、内容を吟味しつつ、地域や中学生に響く情報発信をしていきたい。 ③オープンスクールの中学3年生の参加人数(106+104)は210名(88%)であり、コロナの状況を考えて概ね達成できたと言える。 ④地区別学校説明会は、6月時点で4回実施済み。10月にも2回実施予定。 ⑤学校自己評価アンケートは、未実施。	B	①邑久高通信は、千町祭特別号のみ発行した。今後、紙媒体での広報活動を継続するかどうかを検討する必要がある。 ②12月末でブログ226回(月平均25.1回)。昨年度から着手したFacebookとInstagramについても、ブログと同時進行で更新している。 ③中学3年生のオープンスクールの参加人数(106+104)は210名(88%)であった。中間期に記載した通り、コロナの状況を考えて概ね達成できたと言える。 ④学校説明会は年間8回開催できた。2学期は10月、11月に1回ずつ実施。また11月10日には中学校教員対象の学校説明会(6名参加)を実施した。 ・今年度は、邑久中学校・西大寺中学校・旭東中学校の3校から説明会の依頼を受け実施した。邑久中学校では、4名の生徒とともにプレゼンを行った。 ・昨年度から継続している、美術重視モデル体験講座「実技基礎体験講座」を7月9日(土)、11月5日(土)の2回行い、延べ17名の中学生の参加があった。 ⑤学校自己評価アンケートの「ホームページが充実している」という項目に対して、保護者の回答の94.3%が肯定的回答であった。	B	・中学校卒業見込者の進学希望状況調査(第1次調査)では、普通科65名、生活ビジネス科72名の計137名であった。中学校訪問や学校説明会の効果が表れ、普通科で1.63倍の高倍率となった。一方で、生活ビジネス科では1倍を下回った。合計人数としては、137名が進学希望の意志を示しているの、重点目標に掲げた取組は達成できた。 ・来年度以降は、邑久高通信は今後継続するかどうか、検討する必要がある。一方で、ブログ及びfacebook、instagramは目標の設定数値に到達できそうである。 ・「地区別学校説明会を年間3回以上開催」は8回の開催、及び中学校への説明会を実施できたので、重点目標に掲げた取り組みは達成できた。しかし、「オープンスクールへ参加する中学3年生が240名以上。」については2回の計で210名であったので、2年連続で未達成となったので、目標の設定数値自体を見直す必要がある。 ・重点目標の志願者130名以上を達成するためには、継続して情報発信をするとともに、内容の質をより高めていく必要がある。 ・広報活動をする中で、年間を通して広報室の人数が足りないと感じる部分が多々あったので、この点も改善の必要がある。	妥当	適切

令和4年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

- 1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
- 2 コミュニケーション能力の向上…地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
- 3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び部活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち半数達成 C=全て未達	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち半数達成 C=全て未達		評価の妥当性	改善方策の適切さ
3	生徒課	部活動や生徒会活動等の更なる推進と活動支援を行う。	・部活動顧問や1年次団教員と連携し、1年次生の部活動の入部率を上げる。また、日頃からコロナウイルス感染症対策を徹底し、部活動が持続できる環境を整える。 ・生徒会執行部のリーダーシップのもと、生徒主体の委員会活動や学校行事の充実を図ると共に、活動の「見える化」に取り組む。	①「1年次生徒部活動加入率」が75%を上回る。(昨年度70.6%) ②学校自己評価アンケート(生徒)の「部活動・生徒会活動(各種委員会活動を含む)が活発に行われている」の肯定的回答が前年を上回る。(昨年度87%)	9月時点での1年次生の部活動加入率は73.9%であり、今年度も多くの生徒が部活動に積極的に取り組んでいる。また、新型コロナウイルス感染症による部活動の停止や対外試合の制限等も随分と緩和されてきており、部活動が持続できる環境が回復しつつある。後期は大きな学校行事も控えているので、広報と連携した「見える化」を引き続き行いながら、校外に向けて生徒の生き生きとした活動を発信していきたい。	B	・「学校自己評価」の「部活動や生徒会活動は活発に行われている」の項目では、生徒の89.4%が肯定的な回答をしており、昨年の87%を更に上回っている。教員も84.4%が肯定的な回答をしており(昨年79%)、部活動を中心とした生徒会組織が活性化しつつあると感じる。ただ、改善の余地があると感じている教員も少なくない。 ・1年次生の入部率は73.9%であった。「75%を上回る」という今年度の目標には及ばなかったものの、昨年よりも多くの1年次生が部活動に入部することができた。 ・活動の「見える化」については、掲示板やポスターを有効活用したり、広報とも連携しながらSNSを通して積極的に情報発信を行っている。	B	・部活動の入部率は、近年右肩上がりの状況が続いており、良い循環がつけられていると感じる。ただ、入部はしているが、意欲の低下や環境の変化によって継続的に活動ができていない生徒も一部には見受けられる。今後は、目標や居場所を失いつつある生徒が、再び良い循環に乗れるような手立てが必要であると感じる。 ・今後も部活動、委員会活動、ボランティア活動などあらゆる場面において、活動の「見える化」を促進していきたい。生徒が互いの活動を目にする機会を増やすことで、他者から良い刺激を受け、自分の活動にやりがいや誇りが持てるような仕組みをつくってきたい。	妥当	適切
	2年次	積極的な生徒理解によるインクルーシブな年次を実現する。	・「学校生活に関するアンケート」(年次独自)を3回実施して生徒の人間関係の悩みを見える化する。(早期発見) ・年次の連携を密にして問題行動に対する個別面談を迅速に行う。(早期対応) ・「いいね」カードを継続し生徒の頑張りを見える化を行う。「(いいね)の日」	①学校生活に関するアンケートの「学校で楽しく過ごしている。」の肯定的回答が95%以上。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校はいじめや暴力などを見逃さずに対応してくれている」の肯定的回答(2年次)が90%以上。(昨年度85%)	①第1回学校生活に関するアンケートの「学校で楽しく過ごしている。」の肯定的回答が97.4% ②学校自己評価アンケート(生徒)は11月に実施予定 第2回学校生活に関するアンケートは第3回調査明けに実施予定。第1回アンケート後、悩みのある生徒についてはすぐに担任面談を行い対応した。「いいね」カードは1学期の集計分でクラス毎に表彰を行った。引き続き1年間継続して支援を行ってきたい。	B	①学校生活に関するアンケートの「学校で楽しく過ごしている。」の肯定的回答が11月アンケートで93.3%であった。年間平均では95%であった。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校はいじめや暴力などを見逃さずに対応してくれている」の肯定的回答(2年次)が82.7%	B	年次独自に「学校生活に関するアンケート」を実施することで悩みや不満のある生徒に対して、個別に面談を行うなど、きめ細やかに対応することができた。「いいねカード」は年間を通して実施することができ、学期ごとに表彰するなど生徒の自己肯定感を高める取り組みができた。来年度は「学校生活に関するアンケート」の実施回数を増やし、肯定的回答を増加させたい。	妥当	適切
	教育相談室	「生活アンケート」の項目を各課と連携して見直し、多面からの生徒支援につなげる。	・各学期に1回実施している「生活アンケート」の項目を学校行事に関連したり、各課と連携して見直す。 ・「生活アンケート」実施後は、担任・年次主任・係内で情報共有し、SC等と連携し、生徒支援を行う。	①各回の「生活アンケート」を各課と連携して見直し項目にしている。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、あなたの悩み事や相談に親切に応じている。」の肯定的回答が85%以上。(昨年度82%)	①1学期の「生活アンケート」は各課と連携した項目にした。実施後は情報共有し、必要に応じてSCやSSWと連携した。2学期は千町祭後の10月末に行う予定で、各課と連携した項目にする予定である。 ②学校自己評価アンケート(生徒)は11月に実施予定である。	B	①各課と連携した内容の「生活アンケート」は学期ごとに実施し、その後は担任・年次主任・係で情報共有し、必要に応じてSCやSSWと連携した。3学期は1月末に実施予定である。 ②学校自己評価アンケートの質問番号17に、90.9%の生徒が肯定的な回答をしている。	B	①の「生活アンケート」は次年度から実施媒体を統一したり、実施時間を確保(同時実施)したりして、その結果を教員間で共有し、より良い対応につなげていきたい。 ②の学校自己評価アンケートは90%以上が肯定的な回答である。今後も生徒一人一人に目を向けた対応を大切にしていきたい。	妥当	適切
	3年次	生徒の納得いく進路を実現させる。	・生徒面談と教員の年次会議(毎週)を軸に、学年全体で生徒の支援を行う体制づくりをする。 ・幅広い進路に対応する進路検討会(進学と就職でわけて)のあり方を検討する。 ・課題研究で地域の方々と協働することで社会人としてのマナーを育成する。	①最終生徒アンケートで進路の満足度について肯定的回答が90%以上。(昨年度86.9%) ②学校自己評価アンケート(生徒)の「進路に関する学習(進路ガイダンス、セトリや進路講座など)は、進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答が90%以上。(昨年度92.2%)	①1学期に年次会議を14回(ほぼ毎週)実施し翌週の動きや生徒情報を共有している。セトリで行っている進路別の活動についても担任と協力しながら実施することができた。夏の検討会も進学用と就職用に分けて実施した。生徒が希望する進路実現につながればよいと考える。 ①②学校自己評価アンケート(生徒)は11月、最終生徒アンケートは〇月に実施予定である。	B	①年次会議は25回(ほぼ毎週)実施でき生徒情報を共有しながら一人ひとりにきめ細やかな指導をすることができた。現在のところ94.3%の生徒の進路が決定している。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「進路に関する学習(進路ガイダンス、セトリや進路講座など)は、進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答が90.1%	A	普通科、生活ビジネス科2科体制になって初めての学年であったが、担任、進学多様な進路希望の中、担任の先生を中心に個々の進路に応じた指導をすることができ、ほとんどの生徒が納得する進路をきめることができた。わずかに残った生徒についても最後まで支援していきたい。	妥当	適切